

3) Nakamura Y. and Asanagi K. : Diagnostic Cytology in Orbital and Lid tumor, 1825-1827, International Congress Series NO. 450, XXXIII Concilium Ophth., ISBN Elsevier North-Holland, 1979.

4) 中村泰久, 麻薙 薫: 眼科領域におけるCT SCAN像の画質評価について, 日本眼科紀要 30: 1038-1042, 1979.

5) 麻薙 薫, 中村泰久, 重盛博一: 正常眼窩内各部のX線吸収係数のあわれ方と造影剤によるそれらの造影効果について, 臨床眼科 33: 1009-1013, 1979.

6) 窪田叔子, 山口宗彦, 矢島寿夫: 鼻性視神経障害, とくに後部副鼻腔嚢腫による視神経障害について, 眼科臨床医報 73: 50-57, 1979.

7) 窪田叔子, 倉山英昭, 蟹沢晴子: 長期ステロイド投与患児におけるステロイド白内障発生と全身副作用との関係について, 眼科臨床医報 73: 1024-1027, 1979.

#### ◆ その他

1) 窪田靖夫, 野村恭子: 乳頭血管炎の1例, 眼科臨床医報 73: 1431-1434, 1979.

2) 武田憲夫, 中村泰久, 岩崎 勇: 結膜色素斑の部分に発生した悪性腫瘍の1例, 日本眼科紀要 30: 836-840, 1979.

3) 窪田叔子, 向井貴子: 高含水率ソフトコンタクトレンズの使用経験について, 日本の眼科 50: 975-977, 1979.

4) 柿栖米次, 中村泰久, 岩崎 勇: 小眼球を伴った眼窩腫瘍の1例, 日本眼科紀要 30: 980-983, 1979.

5) 柿栖米次, 中村泰久, 岩崎 勇: ハードコンタクトレンズによる眼瞼異物性肉芽腫の1例, 日本眼科紀要 30: 1822-1826, 1979.

#### ◆ 学会発表

1) Kubota Y. and Kubota S.: ERG of Behcet's disease and its diagnostic significance, XVII Symposium of the International Society for Electrophysiology of Vision, 1979. 6, Erfurt, German Democratic Republic.

2) 窪田靖夫, 麻薙 薫: 進行性錐体機能不全症のERG, 各波成分の分析, 第45回, 日本中部眼科学会, 1979. 9, 松本.

3) 中村泰久, 麻薙 薫, 重盛博一: 眼科領域におけるCT-Scan像の画質評価について, 第49回九州眼科学会, 1979. 5, 福岡.

4) 中村泰久, 武田憲夫, 柿栖米次, 千葉次郎:

Epicanthus inversus, Blepharophimosis, Blepharoptosisを主症状とする症候群の形成手術について, 第2回 眼科手術学会, 1979. 2, 名古屋.

5) 麻薙 薫, 中村泰久, 重盛博一: 視神経を中心とした球後組織のCT係数分布について, 第45回日本中部眼科学会, 1979. 9, 松本.

6) 武田憲夫, 勝呂慶子, 中村泰久, 岩崎 勇: 1眼は増殖性変化を示し, 他眼は眼球瘻に陥った両眼性網膜芽細胞腫の1例, 第45回日本中部眼科学会, 1979. 9, 松本.

7) 飯島幸雄, 石川 清, 金井塚道節, 窪田叔子, 斉藤俊吉: 裂孔原性網膜剥離の発症頻度, 第17回北日本眼科学会, 1979. 6, 弘前.

8) 松田健史, 森沢佐蔵, 武田公男, 窪田叔子, 松井 晶: 家族性血尿の人類遺伝学的分析, 日本解剖学会, 第39回中部地方会, 1979. 11, 瀬戸.

9) 飯島幸雄, 麻薙 薫, 柿栖米次: トブコンフォットスリットランプSL-5Dの使用経験, 第76回中国四国, 第28回四国合同眼科学会, 1979. 7, 徳島.

10) 千葉弥幸, 黒田紀子, 柿栖米次: TV pattern stimulator TPS-7900の使用経験, 第45回日本中部眼科学会, 1979. 9, 松本.

11) 中村泰久, 柿栖米次, 武田憲夫: CT読影に必要な眼窩局所解剖に関する研究, 第33回日本臨床眼科学会, 1979. 11, 東京.

12) 中村泰久, 柿栖米次, 宝田千賀子: 日本人の瞼裂の形態と瞳孔間距離との関係, 第33回日本臨床眼科学会, 1979. 10, 東京.

## 耳 鼻 咽 喉 科 学

教 授	水 越 鉄 理
助 教 授	大 野 吉 昭
講 師	渡 辺 行 雄
助 手	大 橋 直 樹
助 手	小 林 英 人
文部技官	武 田 精 一

#### ◆ 研究概要

1) メニエール病への疫学的, 神経耳科学的アプローチを厚生省特定疾患メニエール病調査研究班の疫学分科会長(幹事)として過去6年間にわたって調査研究している。現在, 確実例520例の追跡調査として初期例180例を対象として120例(66%)を集計し, 疫学臨床的分析をPDP11/40を使用して行った。(水越, 渡辺)

2) 中枢神経系障害, とくに小脳脳幹障害に対す

る神経耳科学的研究として、平衡機能検査の意義、眼運動系検査の定量的分析の応用、他覚的聴覚検査（聴性脳幹反応）、アブミ骨筋反射検査などを行なっている。（水越，大野，渡辺）

3) 有機水銀中毒症（水俣病）に対する神経耳科学的研究として検診の促進を目指して水俣病の鑑別に対する眼運動系検査の意義について滑動性眼運動検査（三角波，正弦波）と衝動性眼運動検査（2点注視）を中心に，小型電算機PDP11/40を使用して分析した。（水越，渡辺，大橋）

4) 眼運動系の自動分析システムの開発について，小型電算機PDP11/40を使用し，眼振波形の分析を可能にし，定量的分析を行なった。（渡辺，大橋）

5) アブミ骨筋反射検査の臨床的研究として小脳脳幹障害を中心に臨床的意義を追究している。（大野，武田）

6) 前庭動眼反射検査装置として電子スイッチを使用し，視運動性と前庭性との関連性について振子様と加速度刺激が可能な2重運動装置を新たに開発し，臨床的応用を目指している。（水越，小林）

7) 神経耳科検査データの情報処理的分析について電算機の応用を測っている。（渡辺，大橋，武田）

#### ◆ 著 書

1) 猪 初男，水越鉄理，大野吉昭：N 3 耳鼻咽喉科領域からみた水俣病，443-454，水俣病の医学—20年の研究と今日の課題，青林舎，1979.

#### ◆ 原著・総説

1) Mizukoshi K., Ino H., Ishikawa K., Watanabe Y., Yamazaki H., Kato I., Okubo J. and Watanabe I.: Epidemiological survey of definite cases of Meniere's disease collected from the seventeen members of the Meniere's Disease Reserch Committee of Japan in 1975-1976, Adv. Oto-Rhino-Laryng.(Basel) **25**: 106-111, 1979.

2) Ino H., Mizukoshi K., Ishikawa K., Watanabe Y., Yamazaki H., Aoyagi M. and Kato I.: Neurotological studies on Menier's disease and sudden deafness. Adv. Oto-Rhino-Laryng.(Basel) **25**: 112-116, 1979.

3) Kato I., Sato Y., Aoyagi M., Mizukoshi K., Kimura Y., Koike Y. and Hayano N.: Caloric pattern test with special refernce to failure of fixation-suppression. Acta Oto-Laryngol.(Stockh) **88**(1-2): 97-104, 1979.

4) Kato I., Kawasaki T., Aoyagi M., Sato Y. and Mizukoshi K.: Loss of visual suppress-

ion of caloric nystagmus in cats. Acta Otolaryngol.(Stockh.) **87**(5-6): 499-505, 1979.

5) 水越鉄理：小児のめまい（眩暈），小児内科 **11**(3): 379-386, 1979.

6) 水越鉄理：小脳脳幹障害に対する神経耳科学的アプローチ，新潟医学会誌 **93**(8): 543-550, 1979.

7) 水越鉄理：小脳障害の神経耳科学的所見，医事新報 No.2891, 121, 1979.

8) 五十嵐秀一，石川和光，山崎晴子，伊藤京子，水越鉄理，渡辺行雄，大橋直樹：不規則跳躍視標追跡検査による衝動性眼球運動の定量化の試み，耳鼻臨床 **72**(9): 1261-1268, 1979.

9) 細川 智，北条博志，水越鉄理：B S Rの脳幹障害の診断について，Audiology Japan **22**(5): 291-292, 1979.

10) 五十嵐淑晴，水越鉄理，石井哲夫：ヒト味覚神経の神経線維分析，耳鼻臨床 **72**(7): 965-969, 1979.

11) 伊藤享子，大橋直樹，五十嵐秀一，山崎晴子，渡辺行雄，石川和光，水越鉄理：平衡機能検査記録のコンピューター登録の試み，耳鼻臨床 **72**(11): 1445-1450, 1979.

12) 水越鉄理，渡辺行雄，松永 亨，佐野光仁，高安功次，香取早苗，松永 喬，水津百合子：めまい症例に対するA T Pの臨床治験，耳鼻臨床 **72**(12): 1621-1638, 1979.

13) 細川 智，北条和博，相馬博志，鳥居智子，水越鉄理：聴性脳幹反応（B S R）の異常波型について，耳鼻臨床 **72**(10): 1333, 1340, 1979.

14) 渡辺行雄，水越鉄理，石川和光，山崎晴子：急性聴覚障害後の聴力，平衡機能所見，臨床耳科 **6**(1): 86-87, 1979.

15) 細川 智，北条和博，相馬博志，石川和光，水越鉄理，渡辺行雄：脳幹障害例の神経耳科学的所見，耳鼻臨床 **72**(12): 1575-1584, 1979.

16) 木村 洋，加藤 功，小池吉郎，渡辺行雄：衝動性眼球運動の定量的分析，正常所見について（その1），日耳鼻 **82**(7): 647-655, 1979.

17) 渡辺行雄：ENG検査の自動分析システム，日耳鼻 **82**(12増): 1553-1579, 1979.

18) 小林英人，加藤 功，木村 洋，富永真琴：垂直性眼振をみとめたボンド中毒例，Equilib, Reserch **38**(2): 238-241, 1979.

19) 渡辺行雄，水越鉄理：メニエール病疫学症状調査の集計処理の経験から，医療情報処理研究会資料 **24**: 25-27, 1979.

## ◆ 学会報告

1) 水越鉄理, 渡辺行雄, 大橋直樹, 黒田京子, 石川和光, 山崎晴子, 渡辺 勲, 大久保 仁: 長期経過症例のメニエール病の病像について, 第80回日耳鼻総会, 1979. 5, 東京, 日耳鼻 82(10): 1136-1137, 1979.

2) 細川 智, 北条和博, 相馬博志, 渡辺行雄, 石川和光, 水越鉄理: 脳幹障害例の神経耳科所見, 第80回日耳鼻総会, 1979. 5, 東京, 日耳鼻 82(10): 1022-1024, 1979.

3) 相馬博志, 細川 智, 北条和博, 渡辺行雄, 石川和光, 水越鉄理: 小脳と脳幹との鑑別に対する神経耳科学の一考察, 第80回日耳鼻総会, 1979. 5, 東京, 日耳鼻 82(10): 1024, 1979.

4) 木村 洋, 加藤 功, 小池吉郎, 水越鉄理, 渡辺行雄: 正常者における衝動性眼球運動, 第80回日耳鼻総会, 1979. 5, 東京, 日耳鼻 82(10): 969-971, 1979.

5) 渡辺行雄, 猪 初男, 水越鉄理, 石川和光, 山崎晴子, 五十嵐秀一, 伊藤享子, 大橋直樹, 黒田京子: ENGの自動分析システム(映画), 第80回日耳鼻総会, 1979. 5, 東京, 日耳鼻 82(10): 1257-1258, 1979.

6) 水越鉄理, 渡辺行雄, 大橋直樹, 石川和光, 山崎晴子, 黒田京子, 渡辺 勲, 大久保 仁: メニエール病の病像経過について, 第38回平衡神経学会, 1979. 11, 岐阜.

7) 細川 智, 水越鉄理, 渡辺行雄, 大橋直樹, 北条和博, 黒田京子, 石川和光: 限局性脳幹障害に対する神経耳科学的検索, 第38回平衡神経学会, 1979. 11, 岐阜.

8) 渡辺行雄, 大橋直樹, 水越鉄理, 猪 初男, 石川和光: 電子計算機による視運動眼振の新しいパラメータに関する知見, 第38回平衡神経学会, 1979. 11, 岐阜.

9) 大橋直樹, 水越鉄理, 渡辺行雄, 黒田京子, 五十嵐秀一: 電子計算機による滑動性眼運動の分析, 第38回平衡神経学会, 1979. 11, 岐阜.

10) 山崎晴子, 石川和光, 伊藤享子, 五十嵐秀一, 水越鉄理, 渡辺行雄: 中枢神経疾患にみられた温度性眼振の特異な所見, 第38回平衡神経学会, 1979. 11, 岐阜.

11) 黒田京子, 山崎晴子, 北条和博, 細川 智, 五十嵐秀一, 伊藤享子, 相馬博志, 水越鉄理, 大野吉昭, 渡辺行雄, 大橋直樹: 神経耳科学的にみた第4脳室腫瘍およびその周辺疾患, 第38回平衡神経学会, 1979. 11, 岐阜.

12) 石川和光, 山崎晴子, 五十嵐秀一, 伊藤享子, 黒田京子, 佐藤弥生, 猪 初男, 水越鉄理, 渡辺行雄, 大橋直樹: 原因不全のめまいへのアプローチ, 他科紹介例を中心に, 第38回平衡神経学会, 1979. 11, 岐阜.

13) 五十嵐秀一, 伊藤享子, 山崎晴子, 石川和光, 水越鉄理, 渡辺行雄, 大橋直樹: 跳躍視標追跡検査の定量化への試み, 病的所見について, 第38回平衡神経学会, 1979. 11, 岐阜.

14) 水越鉄理, 大野吉昭, 渡辺行雄, 大橋直樹: 小脳脳幹障害の局在診断に対する神経耳科学的検査の意義, 第27回日耳鼻中部連合会, 1979. 7, 岐阜.

15) 渡辺行雄, 猪 初男, 水越鉄理, 石川和光, 山崎晴子: 視運動眼振の新しいパラメーターの検討, 第5回文部省難病, 有機水銀中毒症研究会, 1979. 2, 東京.

16) 猪 初男, 水越鉄理, 大野吉昭, 渡辺行雄, 北条和博, 細川 智, 相馬博志, 鳥居智子: 聴性脳幹反応(BSR)からみた有機水銀中毒症(第2報) 第6回水俣病総会研究会, 1979. 2, 東京.

17) 水越鉄理, 石川和光, 渡辺行雄, 山崎晴子, 黒田京子, 大橋直樹, 伊藤享子, 渡辺 勲, 大久保 仁: メニエール病に関する個人追跡調査票の集計結果について, 昭和53年度メニエール病調査研究班総会, 1979. 2, 東京.

18) 水越鉄理: メニエール病の治療について, 薬物療法の基本的治療大系, 昭和54年度メニエール病調査研究班ワークショップ, 1979. 12, 東京.

19) 水越鉄理: 小脳脳幹障害に対する神経耳科学的アプローチ, 第345回新潟医学会, 1979. 2, 新潟.

20) 大野吉昭, 北条和博, 細川 智, 相馬博志: Reflex decayの再検討, 第9回日耳鼻新潟地方部会, 1979. 12, 新潟.

21) 水越鉄理: 小脳脳幹障害の局在診断に対する神経耳科学的アプローチ, 第8回日耳鼻新潟地方部会, 1976. 6, 長岡.

22) 渡辺行雄, 水越鉄理, 大橋直樹, 大野吉昭, 猪 初男: ENGの自動分析システムについて, 第216回日耳鼻北陸地方部会連合会, 1976. 6, 金沢.

23) 大野吉昭, 渡辺行雄, 大橋直樹, 北条和博: ベル麻痺に対するステロイド投与群と非投与群との比較検討, 第217回日耳鼻北陸地方部会連合会, 1979. 9, 福井.

24) 水越鉄理, 大野吉昭, 渡辺行雄, 大橋直樹, 細川 智, 北条和博, 黒田京子: 小脳障害例にみられる神経耳科学的所見について, 第217回日耳鼻北陸地方部会連合会, 1979. 9, 福井.

25) 大橋直樹, 渡辺行雄, 大野吉昭, 水越鉄理: 電子計算機による滑動性眼運動の分析, 第218回耳鼻北陸地方部会連合会, 1979. 12, 金沢.

26) 北条和博, 細川 智, 猪 初男, 大野吉昭: 末梢性顔神麻痺における音響性アブミ骨筋反射と顔面神経電気刺激によるアブミ骨筋収縮との比較検討, 第7回臨床耳科, 1979. 10, 福岡.

27) 細川 智, 北条和博, 相馬博志, 水越鉄理: B S Rの脳幹障害の診断について, 第42回オージオロジー学会1979. 10, 東京.

## 泌 尿 器 科 学

教 授	片 山	喬
助 教 授	中 田	瑛 浩
講 師	服 部	義 博
助 手	秋 谷	徹 行
助 手	柳	重 明
助 手	石 川	茂 典
文部技官	山 崎	典 昌

### ◇ 研究概要

教室における研究テーマは, ①生殖生理に関するもの, ②腎性および副腎性高血圧に関するもの, ③尿路性器腫瘍に関するものおよび④尿路感染症の研究の4つに大別される。

①については従来より片山, 柳が基礎的および臨床的検討をおこなってきたが, 現在は睪丸機能と血流の関係, 副睪丸機能と妊孕性, 精漿中ホルモン, アミノ酸の測定, 各種実験的睪丸障害の研究などをおこなっている。

②については中田が副腎再生高血圧症の昇圧に, 心, 大動脈の collagen, elastin 代謝の亢進が関与することを発見, また estrogen の降圧作用が vascular protein の代謝減少によることを明らかにした。さらに血管の non-collagenous protein の分子レベルの解析を施行中である。

③に関しては片山が前立腺癌のホルモン療法に関する研究を, 服部は実験的膀胱腫瘍の血管蛋白についての研究を中田と共同でおこない, 秋谷は尿路性器腫瘍組織の特異蛋白の抽出, 精製についての研究をおこなっている。

④は片山が小児尿路感染症の研究としておこなってきたものを石川がひきつぎ, 尿路感染と  $\beta_2$ -microglobulin, antibody-coated-bacteria の関係などにつき検討をおこなっている。

### ◇ 著 書

1) Nakada T., Saito H., Ota K., Saegusa T.,

Chikenji M. and Tateno Y.: Increased adrenocortical function in man and rat following hyperbaric oxygen treatment. 159-163, Hyperbaric Medicine, ed. by G. Smith, Aberdeen University Press, Great Britain, 1979.

2) Saito H., Ota K., Saegusa T., Chikenji M., Oka Y., Nakada T., Ogata H., Matsuyo H., Shibata C., Yoshihara I., Noguchi T. and Oku Okui K.: Clinical and experimental studies of OHP treatment on postoperative ileus, 333-337, Hyperbaric Medicine, ed. by G. Smith, Aberdeen University Press, Great Britain, 1979.

3) Nakada T., Yamori Y. and Bartter, F.C.: Plasma prekallikrein in hypertensive rat under altered dietary sodium. Prophylactic Approach to Hypertensive Disease. Perspective in Cardio-vascular Research. 475-483, ed. by Yamori Y., Lovenberg, W. and E. D. Freis Raven Press, New York, 1979.

### ◇ 原 著

1) Nakada T., Yamori Y. and Bartter, F.C.: Effects of altered dietary sodium and desoxycorticosterone acetate on plasma prekallikrein in rats with special reference to hypertension Jap. Cir. J. **43**: 385-393, 1979.

2) Nakada T. and Shigematsu H.: Renal pathology in Bartter's syndrome, Nishinihon J. Urol. **41**: 505-510, 1979.

3) Lovenberg W., Nakada T. and Yamori Y.: Neuronal regulation of vascular non-collagen protein in the spontaneously hypertensive rat, Jap. Heart J. **20**(Sup.1): 243-245, 1979.

4) Nakada T., Shigematsu H. and Lovenberg W.: Increased incorporation of lysine into protein of the internal spermatic and testicular arteries of the spontaneously hypertensive rats. Jap. Heart J. **20**(Sup.): 246-248, 1979.

5) Nakada T., Katayama T. and Shimazaki J.: Suppression of  $^3\text{H}$ -lysine incorporation into the vascular non-collagenous protein in rats treated with estradiol-17 $\beta$ . Europ. J. Pharmacol. **59**: 31-36, 1979.

6) 中田瑛浩, 宮内武彦, 長山忠雄, 嶋田文之, 武宮三三, 吉原暉文, 田中 昇, 吉村 信, 重松秀一, 安達 勇: CEA, calcitonin の産生増加を示し